

「産総研の知財紹介 ー技術移転に向けてー」

産総研コンソーシアム名古屋工業技術協会では、下記の要領にて講演会を開催致します。今回は、最近の産総研の技術移転の可能性の高いあるいは既に実施中の知的財産等の紹介をさせていただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

記

- ◆日時:平成30年10月1日(月)13:30~17:15 (受付開始:13:15~)
- ◆場所:名古屋駅前イノベーションハブ 会議室
(名古屋市中村区名駅4-4-38 愛知県産業労働センター 15階)
- ◆定員:30名
- ◆対象:名古屋工業技術協会会員及び公設機関等に属する方(無料)
※席に余裕がある場合は、一般の方も受付いたします。
- ◆申込方法:裏面の申込書に記入して、FAXで事務局にお送りいただくか、電子メールにて、事務局のE-mailアドレス宛に、申込書に準じて出席される方の氏名、勤務先、所属等を記載してお送りください。

■講演会スケジュール:(司会:産総研中部センター パテントオフィサー 池山 雅美)

13:30- 「新しいFe-X系軟磁性粉体の開発」

磁性粉末冶金研究センター ソフト磁性材料チーム 招聘研究員 今岡 伸嘉

急成長が続く次世代自動車用の駆動モータには、更なる高効率化が求められています。駆動モータ用ステータ部材は、絶縁処理した電磁鋼板を多数積層して初めて低損失が可能になるため、製造工程コストが高い問題点を抱えています。私たちは、様々な金属元素を含むナノフェライト粒子を湿式合成し、続いて水素雰囲気中で還元して、固めるだけで部材製造が可能な、高磁化で低保磁力の新しいFe-X系軟磁性粉体を開発しました。

13:55- 「RNAを選択的に吸着する球状メソポーラスシリカ粒子の開発」

無機機能材料研究部門 総括研究主幹 加藤 且也

次世代のバイオ医薬品として注目されている核酸医薬(DNAやRNA)の分離や精製などの製造工程では、様々な有機あるいは無機物粒子が利用されています。しかし、その作業工程は複雑で、より簡便な分離担体の開発が求められています。我々は、メソ孔を持つアミノ化多孔質シリカ粒子が、核酸分離、特にRNA分離回収用の担体として好適に用いられることを見出しましたので、その技術内容について紹介します。

14:20- 「熱可塑性を付与した改質木材の製造法の開発とその塑性加工」

構造材料研究部門 循環材料グループ 元主任研究員(現東京大学) 榎本 有希子

木材は、木目の美しさや手触り、高級感、温かさなどを特徴とする、天然由来の重要な材料です。しかし、そのままでは熱可塑性がないため、塑性変形による複雑な成形加工が困難で、幅広い利用が限られています。本公演では、木材の表面だけでなく内部にまでエステル化処理を施すことで、組織構造を保持したまま熱可塑性を付与した塊状の改質木材を開発し、その成形加工性や強度、耐久性の向上を目指した研究についてご紹介します。

14:45- 「冷却水が不要な小型熱発電装置の開発」

無機機能材料研究部門 機能調和材料グループ 研究グループ長 舟橋 良次

世界最高の耐久性を持つ酸化物熱電モジュールを搭載した小型熱発電機を開発しました。冷却水が不要で、200~800°Cで加熱すると、一台で2~10Wの発電が可能です。設置が容易かつ長期間の連続発電が可能で、電池交換も不要な、安全で簡単に使用できる発電装置です。工業炉、焼却炉、エンジンからの排熱を利用して発電することで、LED照明やセンシング・データ送信などIoT関連装置に使用でき、設備の安全性・信頼性を向上させます。その上、この発電機自体からは、二酸化炭素の排出もありません。また、災害時の避難場所、工場などでの緊急電源としても利用できます。本講演では、発電機の性能と応用例について紹介します。

15:10- 総括討論・名刺交換会その1

15:25- 「特殊な高分子薄膜(ポリマーブラシ)簡易合成技術の開発」

構造材料研究部門 材料表面グループ 研究員 佐藤 知哉

高分子鎖が基材表面に高密度に固定化された分子組織であるポリマーブラシは、従来の高分子薄膜にはない特異な構造や表面特性を示し、次世代の表面改質材料として期待されている。本講演では、ポリマーブラシ合成におけるこれまでの技術的な課題を述べた後、ポリマーブラシの大面積合成を可能にした技術、1)ゾルゲル法による重合開始層の高速成膜技術と、2)大気中でのポリマーブラシ合成技術、について紹介する。

15:50－「ペロブスカイト型酸化物を用いた白金族金属の可溶化技術の開発」

無機機能材料研究部門 機能集積化技術グループ

主任研究員 野村 勝裕

白金族金属(PGM)は、宝飾用以外に、自動車排ガス用触媒、工業用、医療用など広範囲に使用されていますが、産出量が少なく高価なため、使用量削減・回収による再利用が重要です。従来、PGM回収の溶解工程で、王水や塩酸＋塩素ガスなどが使用されますが、これらは腐食性や有毒性が非常に高く問題です。本講演では、PGMをペロブスカイト型酸化物に吸蔵させることで塩酸に易溶化する技術を紹介します。

16:15－「セラミックス絶縁放熱基板の機械特性評価技術および加速劣化試験法の開発」

構造材料研究部門 セラミック組織制御グループ

主任研究員 宮崎 広行

省エネルギーのためのキーテクノロジーとして注目を浴びるSiCパワーモジュールでは、高い絶縁性と放熱性を兼ね備えたセラミック基板が用いられています。しかし、その長期信頼性確保のために、数ヶ月に及ぶ温度サイクル試験が欠かせませんでした。本講演会では、その温度サイクル試験の代わりに、より短時間で評価できる、繰返し4点曲げによる加速劣化試験法や、セラミックス基板の機械特性評価技術に関して紹介します。

16:40－「産総研の技術移転について」

イノベーション推進本部 ベンチャー開発・技術移転センター

技術移転マネージャー 倉西 敏行

産総研は、産業技術政策の中核の実施機関として革新的な技術シーズを事業化に繋ぐ「橋渡し」の役割を果たすことが求められています。技術シーズの事業化の方法としては、(1)既存企業への知的財産等のライセンスによる技術移転、(2)技術移転ベンチャー等の創業による事業化、があります。今回は実際に企業の皆様に産総研の持つ技術シーズを事業化に活用していただくための技術移転の様々な手続きについて、その概略を紹介いたします。

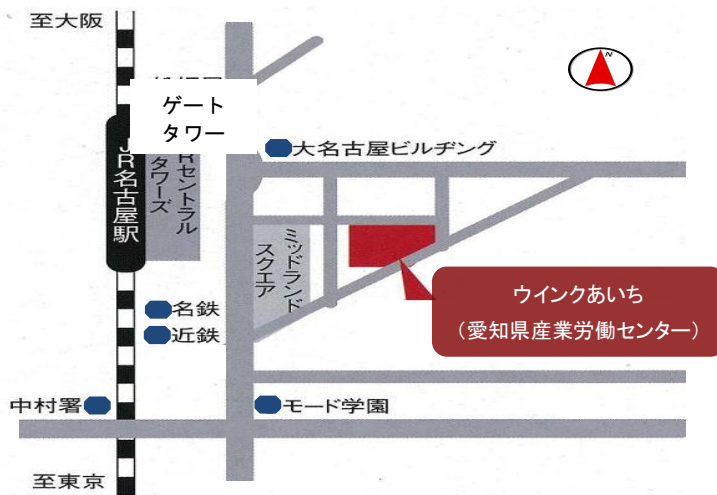
16:55－ 総括討論・名刺交換会その2 (17:15 終了)

【お問合せ・申し込み先】

産総研コンソーシアム名古屋工業技術協会
事務局(名古屋駅前イノベーションハブ内)
TEL:052-583-6454
FAX:052-583-6462
E-mail: aist-chubu-kyokai-ml@aist.go.jp

【会場案内】(右図参照)

名古屋駅前イノベーションハブ
住所: 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-38
愛知県産業労働センター 15階
(ウインクあいち)
*名古屋駅より徒歩2分



産総研コンソーシアム名古屋工業技術協会 平成30年度産総研知財普及講演会
「産総研の知財紹介 ー技術移転に向けてー」(平成30年10月1日開催)
参加申込書

送付先 FAX:052-583-6462

氏名(代表者)		参加者数	名
勤務先			
部署名		役職	
住所(連絡先)	〒	TEL ()	—

※本申込書に記載される情報につきましては、個人情報保護法のもとに適切に管理し、本目的以外への転用は行ないません。